

会員で監事の桑原康さんが(農事組合法人 富士農場サービス)
令和5年度 公益社団法人大日本農会
農事功績者表彰(緑白綬有功章)を受賞されました!!



令和5年度農事功績者表彰事業受章者に対する総裁秋篠宮皇嗣殿下のお言葉

本日、大日本農会「令和5年度農事功績者表彰式」が、全国各地から多くの表彰者を迎え、4年ぶりに以前と同じ規模で開催されることを誠に喜ばしく思います。

この度、表彰を受けられる皆様に心からお慶びを申し上げます。

大日本農会は、農業・農村の振興と発展に寄与することを目的として1881年に創設されました。爾来、140年余りにわたって、生産現場の農業従事者、特に篤農家の活動を基礎として、今日まで数々の事業を展開してまいりました。その中には、農事講演会の開催や会誌「農業」の刊行などがあります。これらを通じて、農業の現状や課題への理解を深めることができるとともに、農業・農村における人材育成と新しい農業技術・経営の普及に大きく貢献しております。

さて、「農事功績者表彰事業」は、本会における最大の事業であり、1894年の創設以来、本年で107回を数えます。この長い歴史と、この間の総受章者数が1万4,000名を超えるに至っていることに深い感慨を覚えます。

本年も、スマート農業の導入や環境保全型農業への取り組みなど、さまざまな工夫を重ねた方々が受賞されました。

農業と農村は、国民生活の基盤である食料を供給するのみならず、国土の維持保全やそこに生息する生き物の多様性の維持、そして地域文化の継承など、国民の暮らしにとって大切な多面的な役割を果たしております。

いっぽう、我が国の農業・農村を取り巻く状況をみると、農業者・農村人口の減少と高齢化、そしてカロリーベースの食料自給率が40パーセントを切り、主要先進国の中で最低の水準になっていることなど、課題は山積しております。また、近年の気候変動が農作物や家畜飼養へ影響していることに加え、世界情勢の緊迫化などを背景とした資材と飼料の高騰の問題、そして地球温暖化の原因とされるCO2の削減も含め、さまざまな事象を考慮した農業生産に取り組んでいくことが求められています。

このような状況の下、本表彰事業が、各地域で創意工夫を凝らし、直面する課題解決に取り組んでおられる方々にとってさらなる励みとなる一つの契機になるとともに、本会の活動が、今後の我が国農業の振興に貢献できることを願っております。

おわりに、本日表彰を受けられる皆様のご功績に深く敬意を表しますとともに、皆様の活動がさらに発展していくことを祈念し、表彰式に寄せる言葉といたします。

2023年11月15日

大日本農会総裁 秋篠宮文仁



令和5年度
農事功績表彰者名簿

令和5年11月15日

公益社団法人
大日本農会

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
三浦 壽夫 (82歳)	山梨県 富士河口湖町	施設トマト・ 露地野菜・水 稲作経営	1 被覆資材活用により出荷の早期化と作期拡大を実現し、収益性を向上。トマト栽培で土づくりの徹底と除塩の組み合わせ等独創的な栽培技術により連作障害の回避と省力化を実現。 2 出荷組合設立に中心的な役割を果たし、地域野菜の生産振興やブランド化に大きく貢献するとともに、地産地消の取組を先導。新規就農希望者の受け入れ先となり、担い手育成に貢献。
小池 捷一 (84歳)	長野県 須坂市	ブドウ専作経 営	1 巨峰の露地・ハウス栽培で地域のリーダーとして産地をけん引。JA部会長として、県育成品種を率先して導入し、技術確立に寄与。新品種中心の黒・緑・赤の種なしブドウ経営を实践。 2 加温ハウス栽培技術の地域全体の高位平準化に寄与。ナガノパープルの産地化を先導し、県下最大の産地を創出。「バリエティあふれるぶどうの総合供給産地」の構造改革の推進。
桑原 康 (70歳)	静岡県 富士宮市	養豚経営 (法人)	1 国内外の優秀血統を導入し、種豚改良に取組。日本初の豚人工授精センターを開設するなど地域畜産業に貢献。人工授精用精液の広域流通化のために保存剤を開発し、養豚業振興に功績。 2 全国に先駆け豚人工授精を実現し、モデル地区化を推進。日本養豚学会評議員、県養豚協会会長、JICA講師等リーダーとして活動するほか、広く研修生を受入れ、担い手育成に貢献。

桑原 康(70歳) 獣医師(富士宮市) 養豚経営(法人)

- 1 国内外の優秀血統を導入し、種豚改良に取組。日本初の豚人工授精センターを開設するなど地域畜産業に貢献。人工授精用精液の広域流通化のために保存剤を開発し、養豚振興業に功績。
- 2 全国に先駆け豚人工授精を実現し、モデル地区化を推進。日本養豚学会評議員、県養豚協会会長、JICA講師等リーダーとして活動するほか、広く研修生を受入れ、担い手育成に貢献。

緑白綬有功章受賞者は51名です。

そのうちのひとり、桑原さん。本当におめでとうございます。





祝 桑原康さん
 令和5年度
 公益社団法人 大日本農会
 農事功績者表彰
 緑白綬有功章受章

農場概要 基本情報

農場名	農事組合法人 富士農場サービス 有限会社 TOPICS
飼養頭数	種雄豚 220 頭 種雌豚 380 頭
従業員数	18 名
飼養品種	ヨークシャー、バークシャー、ランドレース、 大ヨークシャー、デュロック、民豚、マンガリツツア

農場の年表

富士地区は明治初頭より養豚が始まる。	
昭和 22 年	桑原種豚場を先代が開設 種雄豚場と枝肉卸業
昭和 37 年	人工授精所 開設
昭和 51 年	豚専門の桑原家畜診療所 開設
昭和 59 年	富士農場サービス 設立
平成 10 年	農事組合法人 富士農場サービス 設立
平成 15 年	有限会社 TOPICS 設立
平成 19 年	富士マイクラ 株式会社 設立

養豚業・育種は芸術、感動、感謝であり健康産業です

●受章について



Q1 受章おめでとうございます。今のお気持ちをお聞かせください

「身に余る光栄」そのものです。関係する皆様に感謝します。

Q2 どういったきっかけで受章に至ったのでしょうか

静岡県の食と農の基本計画の推進を図る為のビジネス経営の実現のため、目指すべき優良ビジネスモデル経営体として、また、魅力ある農業を全国へ PR する手段として推薦していただきました。その結果、農業の発展に貢献した実績功績者として令和元年に全国優良経営体表彰で農林水産大臣賞を受賞、その後も真摯な努力を続けていることが認められました。

●桑原さんについて

Q3 そもそも養豚を始めたきっかけを教えてください

富士地区は明治初頭に養豚が普及し、飼育品種はヨークシャーでした。昭和 30 年代は全国市町村単位農産物売り上げが NO,1 になっています。その中でも養豚は第 1 位でした。弊社先代は種雄豚場としてスタートしましたが、私は多くのセンパイ養豚家のお手伝いをしたいと思い、養豚獣医師を目指しました。

Q4 静岡県・岩手県・北海道と 3 か所で農場経営を行っていらっしゃいますが、各地域で養豚(種豚生産)を行うメリット・デメリットがあれば教えてください

平成 30 年に我が国で発生した豚熱に伴い、急遽の緊急避難を余儀なくされました。静岡県の本拠地で未来永劫に種豚生産・精液供給が出来れば悩むことは無いのですが万一、豚熱の侵入による全頭殺処分があったとしたら、半世紀以上に渡って継代してきた独立型の遺伝子は皆無となってしまいます。

しかし実際は、格好いい「リスク分散」なんてものではありませんでした。遠隔地避難は未経験でしたが、弊社にとっては北海道から沖縄まで、全国区でお世話になって来た方々からの、遺伝子を静岡県から遠隔地へ移動することで守ってほしいとの要望の声を多くいただき、供給責任を強く感じました。

弊社は全国都道府県の試験場、大学・高校等の研究機関 90 場あまりや、SPF 農場にも育種資源を提供させて頂いていることから強い使命感を感じ、静岡県から岩手県、さらに北海道へと 2 度の移転に踏み切りました。弊社のような零細家族経営的な種豚場は体力や強いバックアップも無いため、非常に厳しい決断でした。しかしこの決断は損得では計りきれない決断でもあったのです。

メリットとしては、顧客の皆様からの「遺伝子の分散隔離」という要望に応えることが出来たことだと思います。

デメリットとしては、やはり経営リスクの過大さの現実です。

反省と課題を感じています。

●種豚生産について

Q5 種豚生産でもっとも気を付けていることはなんですか？

遺伝形質の確保は生易しいことではなく、10年、20年、30年後の近未来を見据えた方向性と目標が必要です。海外からの改良資源の導入は、今後は難しいことを念頭に凍結精液や受精卵の保存も必要です。遺伝資源を守っていくためには、防疫ルールの徹底のほか、育種集団の大きさ、後継者育成、経営の安定化、卓越した選抜眼と選抜センス、そしてすべてに対して前向きであることのバランスだと思います。

Q6 これまでで一番優秀だと思った種豚は何でしょうか

頭の中に蘇ってくる種雄豚、各品種ともいっぱいです・・・

D エクスプレス 4-7 は日本のデュロック種の礎となりました。

D682 エクスプレスは超大型で、発育、骨格は特 A クラス、これから 100 年先でも通用する品格を持っています。

L204-5 ドールマンは 30 年前のスウェーデン原産ですが、私はアメリカのコンパート農場より導入しました。発育、肉質、繁殖、強健性のバランスの良いパーフェクトな種豚で、100 年先の未来でも通用する四刀流 GGP です。こちらの凍結精液は 104 本保存しています。30 年前の全米ランドレース繁殖成績上位 30 頭のうち、1~3 位を独占しました。

W ルーク 69-9 は大柄で肢蹄、骨格、体質は特 A クラス。100 年先でも通用する品格です。

他、いろいろ尽きませんが、「品格の良い種豚は昔も今も近未来も、いつの時代も通用する」と言えるでしょう。

Q7 桑原さんの思う「美味しい」種豚の体型について教えてください

肢蹄、骨格、健康、長寿な骨格体型には美味しい豚肉が宿る!!

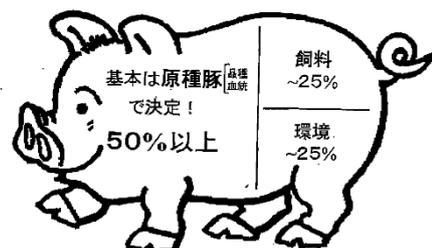
遺伝的には肉質を常にチェックしながら系統選抜を継続することにあります。

肉質は雄系だけに求めるのではなく、雌系の責任も 50%はあるので全方位からの視線が必須です。

Q8 枝肉や取引先での評価について、種豚(母豚や止め雄)の影響はどのくらいありますか

高品質の豚肉の責任は雄と雌、半々です。どれだけ良い種子を肥やしのない土に蒔いても良い果実は実りません。それと同じで、遺伝は 50~70%であり、飼料と環境の各 25%だと考えています。あとは遺伝力の秘めた力です。

肉質・品質に与える3大要因
—遺伝・育種・肉質研究—



Q9 種豚生産の楽しさ、難しさはどんな時に感じますか？

山高ければ谷深し、と言われるように、目指すところが高ければ深い谷間にも遭遇します。高い山を目指し続けるのは大変です。1つの安定した種豚群集団を作り出すまでは大変です。やっと完成しても、維持するための血液更新の資源、選抜と確保が次のテーマとなり、10年、20年先の近未来に英知を絞り出すことに対する楽しさもあれば難しさもあります。種豚は数字で表現できない部分が大半です。育種は芸術です。感動で味を表現する難しさも感じています。

Q10 ユーザー(お客さん)の求める種豚が変わってきていると感じることはありますか

体質的に良い種豚、肉質の良い種豚は10年前、20年前もまた10年後も20年後も同じです。流行に惑わされず能力とその選抜を繰り返すのみです。お客様はいつも無いものねだりをすると感じますが、それは人間の心理でありかつ消費者心理です。しかしそれに答えられないと市場からは置いていかれてしまうのです。

Q11 種豚生産のうえで、「ライバル」と感じる方はいますか？

「ライバル」はやはり最終的には生産者として自分自身のやる気、根気、方向性と流通・消費者といかに連携できるか、歯車が合致するか?というところでしょうか。

Q12 日本で種豚を生産する意義について、お考えを聞かせてください

日本国内で生産される豚肉は世界の生産量の1%でしかありません。その中でのテーブルミートの希少性は、世界生産量の0.5%にも当たらない点だと思います。その資源は我々日本人が守り、育てるしかありません。「世界と戦える希少な国産豚肉」だと常々思っています。

日本人が考える「日本的育種」で、旨い米に合う豚肉は海外の育種は考えてくれません。日本の文化・食卓は日本人しか考えられないのです。だからこそそこに感動と感謝が生まれるのです。

Q13 いわゆる高性能母豚に対して、日本の種豚をアピールするには何が必要でしょうか

日本的育種であり、丈夫で良く産み(14~15頭産みますよ!!)、肉質が良いことです。年間27頭出荷可能です。

日本の美味いには、感動・感謝・心の高揚と栄養を呼び込みます。旨いの微量要素は心の癒しです。そのためにも、原種は日本で改良し維持していく必要性を強く思います。

Q14 桑原康さんの今後の展望を教えてください

もっと美味しいものがあるはずだ!!

日本の食卓、日本の旨いは世界の旨いになるはずだ!!

日本の旨いは日本人の食文化であり、海外で日本の食文化を支えてはくれません。海外から来る方々に日本の普通に旨い、当たり前に旨い国産豚肉が普及したら大変面白いと思います。日本の国産豚肉で海外の皆さんを唸らせてみたいです。

また、日本全国各地にこだわりの生産者がたくさんいます。もっと皆さんと連携できたら面白いことが出来るのでは、と考えています。

Q15 桑原さんの生産されたお肉や桑原さんの生産された種豚を使った豚肉を食べられるところはありませんか？

いっぱいありますヨ!!

詳しくは是非、お問い合わせください。

私の豚肉は流通ルート、生産履歴(トレサビリティ)がはっきりしています。

都内、首都圏、大阪でも数百軒。ミシュラン店でも、普通のお店でも食べることが出来ます。

本当に多くの仲間に支えられていますね、感謝です。

●日本の養豚について

Q16 日本の養豚の現状について、お考えを教えてください

国産豚肉の多様化は消費者への多様性と好奇心を呼び込んでいるので、それが豚肉自給率や消費拡大の呼び込みに貢献していると思います。

大型養豚の大量生産、コスト追求型の育種ハイブリッドはそちら側に任せて、弊社の客層には品質徹底追及型育種で、こういったことに関心の高い消費者層をターゲットに美味しさを提供していきます。

その上で、生産・流通の場で国産豚肉をアピールし合い、お互いの土俵を盛り上げられれば良いと考えています。

Q17 豚熱・アフリカ豚熱などの海外悪性伝染病の脅威に対して、何が必要でしょうか

豚熱、アフリカ豚熱さらに口蹄疫がイノシシに感染したら日本の畜産は最悪のシナリオとなってしまいます。国を挙げての改良と遺伝子を守ろうとするリスク分散は国家プロジェクトであって、頑張っている農家への支援が必須です。そしてこれは結果として国益になります。

Q18 これからの日本の養豚に必要なものとはなんですか

生産、流通、消費拡大の歯車が噛み合っていません。

例えば、栄養価で言えばビタミン B1 について、豚肉は牛・鶏肉の 10 倍です。ウナギと比較すると 1.2 倍ありますが価格は 1/3 程度です。こういった PR が薄すぎると感じています。

Q19 豚の登記登録の必要性について御意見をお願いします

人間の戸籍制度と同じく肉豚、種豚も血統・戸籍をたどれないとどこで成功し、どこでつまずいたか分からなくなってしまいます。残念ながら現状、この戸籍の重要性を感じている生産者が少ないため、養豚産業、育種資源を維持改良していくためにも国策支援が必須です。

世界の養豚の根幹は育種の競争です。この育種の競争は、日本の消費者はもちろんだが、流通・生産者からも聞こえてきません。しかし、海外種豚も水面下では激しく戦っています。日本は穏やかなのでしょうか?競争力を持っていないのでしょうか?諦めてしまっ

ているのでしょうか?知らんぷりをしてしまっているのでしょうか?海外ハイブリッド豚の熾烈な競争の様が日本では微塵も感じられないと思っているのは私だけでしょうか??海外ハイブリッド豚はたゆまぬ努力と工夫を継続しているのです。

日本の育種集団は小さく、その労力や効果は見えづらくて、登記登録の費用対効果を考えた時、コストがかさむのも事実です。この辺りもしっかりと議論する必要があると考えます。

持続可能な育種資源の掘り起し。一体いつまで可能なのか、正直いつも不安に感じています。

Q20 カナダ産などの評価が高いなか、輸入豚肉に負けない取組などがあれば教えてください

カナダは隣国のアメリカとは違う肉の品質重視の LWD であり、日本を輸出先としてテーブルミート生産に対する組織的改良戦略について国を挙げ、実践し続けています。かなり広域的に大きな育種集団を持って改良に取り組んでいます。日本は議論についてはしている?ものの、実質的成果に至っていません。のんびりしているのか、のんびりしてきてしまったのか・・・

このままだと日本ではギアチェンジできるか不安です。また、カナダには食肉センターに日本向けのパーツ選抜員がおり、パーツごとに厳選して送りこんで来ています。実はその現場を 20 余年前、実際にカナダの食肉センターで見てきました。今から 20 余年前です・・・

Q21 全国の生産者、特に中小規模の生産者に一言お願いします

大規模農場は輸入に負けないコスト追求型の消費の根底を支える供給を担ってきました。比べて中小規模農場には、土俵を変えて付加価値と多様性と多様な能力経営で地域を守り、トータルで日本の食を守りぬいて欲しいと思います。

旨い米と一緒に感動、感謝し、それぞれに合う豚肉で家族と、仲間と旨いネ、味が濃いネ、柔らかいネ、次はどんな豚肉を食べようかな?と話題に事欠かない銘柄豚が全国各地で発信できれば生産者も流通も、消費者も喜ぶと思います。

Q22 最後に桑原さんにとって「養豚業」とはなんですか

養豚業、育種は芸術、感動、感謝であり健康産業です。

豚肉は牛・鶏肉の 10 倍、ウナギの 1.2 倍のビタミン B1 を含有しています。

しかも、栄養分析表を見ても上位 1~38 番までが豚肉であり、39 番目にウナギが続きます。まさにビタミン B1 なのです。

ビタミン B1 は米の炭水化物の糖分をエネルギーに変えるため、米との相性が抜群です。また、疲労回復、ストレス解消、夏バテ予防、体力増強、神経疲れ等などに有効と言われています。さらには、神経伝達物質のアセチルコリンの活性化に最も有効であることから、近年はアスリートも注目しています。

このような素晴らしい食材をもっと消費者にアピールしないのは、産業にとって大損害です。価格もウナギの 1/3 程度です。毎日積極的に摂取すべき食材と言えます。

もっとビタミンB1をアピールしていきましょう。その一翼を担える養豚産業に従事していることを誇りに思い、感謝を申し上げます。



お忙しいなか、ご回答ありがとうございました！

